



小学生・中学生の皆さんへ

2018年[平成30年]

発行：荒川区
発行部数：23,000部
〒116-8501
荒川区荒川2-2-3
☎(3802)3111

あらかわ区報 Jr

11.7
No.120

ARAKAWA KUHO JUNIOR

ジュニア

あらかわ区報 Jr.は
荒川区ホームページで
ご覧になれます

<https://www.city.arakawa.tokyo.jp/kusei/koho/koho/arakawakuhojr/index.html>



11月11日は、「介護の日」です。すべての人が地域の中で、
支え合う気持ちを持てる日としたいという思いから「いい
日、いい日、(11月11日)毎日、あったか介護ありがとう」に
かけて2008年に定められました。今回、介護に携わる人や
介護サービスを利用する人だけで
なく、もっと多くの人に「介護のある
生活」を知ってもらうため、介護
施設取材しました。



みんなに知ってほしい

介護のある生活

特別養護老人ホームとは、普段の生活で介護を必要とする高齢者の皆さんが、長期入居できる施設のことだよ。施設には、介護に関する資格や経験を持った人たちがたくさん働いているんだ。今回、ジュニア記者には、「高齢になるとどんなことが不便になるのか」、そして、「特別養護老人ホームに併設している日帰りの『デイサービス』を利用している皆さんが、どんな介護サービスを受けているのか」を体験してもらったよ。



問い合わせ 介護保険課 ☎内線2431

次は12月に発行する予定です

11月11日は
介護の日



介護のこと、いろいろ知ろう! 覚えよう!

第四中学校2年生のジュニア記者が訪ねたのは、「特別養護老人ホーム花の木ハイム荒川」。取材日はちょうど、併設するデイサービスのプログラムで敬老会が行われていて、施設内はとてにぎやかでした。ジュニア記者たちの緊張もほぐれたところで、取材スタートです。

疑似体験
グッズで

知る

高齢者疑似体験教材セットを使って、高齢者の日常生活を体験! 視界が狭く見えにくくなる「ゴーグル」、耳が聞こえにくくなる「イヤードیفンダー」、重り付きの「ベスト」を装着します。介助者は介助される人を段差などの危険から守るため、手を添えてサポートしました。

check!

認知症サポーターを知ってますか?



認知症サポーターとは、認知症について正しく理解し、認知症の方やその家族に対して温かい目で見守り、必要な時にちょっとしたお手伝いをする「応援者」のことです。認知症の基礎知識と対応方法を学ぶ講座を受講すると、サポーターの目印となるオレンジリングがもらえます。「認知症になっても安心して暮らせるまち」を一緒に作りましょう。

なお、夏休みには、小・中学生向けの「認知症サポーター養成講座」も予定しています。

詳しくはこちらへ
「認知症サポーター養成講座」
あらみいの知って安心認知症講座



問合せ 高齢者福祉課 内線2667

学ぶ

施設長さん
のお話を
聞いて



特別養護老人ホーム花の木ハイム荒川の施設長・伊藤月子さんに、ジュニア記者たちが疑問に思っていることや介護について知りたかったことを取材しました!

目の見え方、
耳の聞こえ方は
普段と比べて
どう?



前園さんは「耳が聞こえにくいので、自分の声の大きさが分からないことが不便だったそうです。五月女さんのようにひじを支えてサポートすると、体が安定して歩きやすくなります」

音が遠くから聞こえて
聞き取りづらい!
視界はぼんやり
しているよ

左 五月女空さん
右 前園朱里さん

視野が狭くて
歩みにくいね。
特に段差が怖い!



「階段は上りよりも下るときが怖い」と阪本くん。腰をかかめて、足で段差を探りながらゆっくり下ります。サポートするときは、よく聞こえるように大きめの声で話しかけましょう

疑似体験
セットを
着けた感想は?



左 阪本尊くん
右 望月亮汰くん

体験する

施設で

脚力が弱って一人で移動ができない人を、ベッドから車いすへ移乗する介助です。最初に両足をゆっくりとベッドから下ろして、座った状態に。脇の下から両腕を入れて体を支え、くると回して車いすに座ってもらいます。両足を車いすのフットレストに乗せて完了です

移乗介助



送迎介助



デイサービスの利用者を施設の車で送迎します。車の後部には電動のリフトが付いていて、体の不自由な人が車いすのまま車内に移動できるようになっています。昇降中の事故などが起こらないよう、車いすをベルトやフックでしっかりと固定し、動かす時には必ず声をかけます

check!

介護保険について

介護保険は40歳以上の人加入する社会保険です。介護や支援が必要と認定されたときは、前年の所得などに応じて1~3割の自己負担で介護サービスを受けることができます。残りの7~9割は加入者が納める保険料と、国・都道府県・区市町村の税金から支払われます。介護は誰にとっても身近なもので、介護保険は社会全体で支える仕組みになっているのです。



食事介助



自分で食事ができない利用者の介助をします。一口で食べられる量や食事のペースは人それぞれなので、相手の表情などをよく見ながらサポートをすることが大切です

着替え介助



2人1組になり、着手を動かすことができない人の着替えを想定した介助を体験。着るときは動かないほうの手からそでを通し、脱ぐ時は動くほうの手から脱ぐのが基本です

Q: この仕事をしていてうれしかったこと、悲しかったことを教えてください。

A: うれしいのは利用者の方に「ありがとう」と言ってもらえた時や、皆さんの笑顔が見られることです。お別れの時がきてしまうのは悲しいですが、好きな仕事なので楽しいことのほうが多いです。

Q: 介護する上で大切なことは何ですか?

A: 常に相手の立場に立って考えること。「お世話をしている」ではなく「お世話をさせてもらっている」という謙虚な気持ちを忘れないよう心がけています。



初めて介護のある生活を体験したジュニア記者たち。「高齢者の生活は大変だと思った」、「街で困っている高齢の方を見かけたら助けになりたい」などの感想ができました

介護というお仕事

現在の日本は高齢者が増える一方、働く世代の人たちが減ってきており、介護の現場でも人手不足が深刻な課題となっています。介護の仕事は、人と心のつながりをきずいていくやりがいのある仕事です。介護の仕事に興味を持った人は、下のサイトをのぞいて見てね。

詳しくはこちら
東京都社会福祉協議会
東京都福祉人材センター



現場で活躍する 介護ロボット

最近介護の現場にもロボットが導入され始めています。人の話し相手になる「コミュニケーションロボット「PALRO」や、人の動作を補助するために装着して使う「パワーアシストロボット」など、さまざまな種類のロボットが登場しており、介護現場で今後の活躍が期待されています!



コミュニケーション
ロボット「PALRO」

Topics

区立中学校防災部連合行事
金石市等被災地訪問報告会

9月3日、ゆいの森あらかわで「荒川区立中学校防災部連合行事金石市等被災地訪問報告会」が行われました。各中学校(全10校)から2名の計20名が参加し、8月1・2日の二日間での被災地訪問の報告や、金石東中学校の生徒との交流について発表がありました。生徒たちからは、日頃の防災部の取り組みや震災から7年経った復興に向けての様子や報告の後、金石市復興に向けての歌なども披露されました。



被災地訪問を報告



あいさつをする
西川区長



金石市復興に向けての歌を披露

東尾久運動場多目的広場が
リニューアルオープン

10月1日に東尾久運動場多目的広場が、リニューアルオープンしました。多目的広場は約1.7倍に大幅に拡張され、公式のサッカーができる広さとなりました。その他、足洗い場・手洗い場、観戦するためのスタンド席280席も新設され、さまざまな面で誰もが利用しやすい施設となりました。



元気にサッカーをする子どもたち

作・かずき伊緒



あらかわ少女☆ゆいちゃん

あらかわ
今昔ものがたり
日 [あらかわの歴史と伝説]

その120 金杉の画家・河鍋暁斎とあらかわ

文化の秋、芸術の秋、都内のあちこちで名画の展示会が開かれているよね。なにに、お休みの日は家族で美術館めぐりを楽しんだって。それはすてきだね。

暁斎さんが描いた橋場の渡し周辺

ところで、名画といえばこの絵を知っているかい？ 2枚の絵が上下に並べられている珍しい絵だ。南千住三丁目石浜神社、白鬚橋辺りをテーマにして描いたものなんだよ。上の絵の舞台は、石浜神社。お稲荷さんにまつわる不思議なお話をテーマにしたもの。下の絵の舞台は、橋場の渡しに近くにあつ



東京開化名勝ノ内
(荒川ふるさと文化館蔵)

【問合せ】荒川ふるさと文化館
☎(3807)9234



執筆
野尻館長

た茶屋。二人の女のひとと一匹の猫が横になり、目の前の隅田川と遠くの筑波山をのんびりながめている。緊張感がある上の絵とは正反対だね。

妖怪画家・暁斎さん

この絵は、幕末から明治時代の初めにかけて大活躍した河鍋暁斎さんが描いたものだ。暁斎さんの名前を初めて耳にしたかもしれないけど、きつとどこかで絵は見ているはず。暁斎さんは、みんなが大好きな妖怪の絵をいっぱい描いたんだ。「暁斎百鬼画談」という妖怪の本も出版しているんだよ。それに仏画から、地獄絵、妖怪画、笑いを誘う風刺画まで、何でもござれの画家だったんだ。外国人のお友だちもいて、有名な建築家のジョサイア・コンドルさんを弟子にするなど国際人だったんだよ。

金杉の画家・暁斎さん

暁斎さんは、よく引越をしたそうなんだけど、実は明治22年(1889)57才で亡くなるまでの数年間、お嫁さんの実家がある金杉(今の東日暮里五丁目、都立竹台高校付近)に住んでいたんだって。あらかわが暁斎さんの晩年の活動の場だったんだよ。今度、荒川ふるさと文化館や図書館で暁斎さんについて調べてみよう。